令和５年度中山間「ふるさと支援隊」活動報告書（概要版）

活動テーマ

飯能の里山資源を活用した
アウトドア・スポーツ・ツーリズムへの挑戦

飯能市原市場地区　駿河台大学

１　活動目的

里山資源を活用した「体験」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる活動を進め、ひいては原市場・名栗をアウトドア・スポーツ・ツーリズムの聖地にする！こと。

２　活動地域の現状

豊かな森林資源と清流を武器に、山、川、湖などの多様な自然が楽しめる飯能。ここでは、2004 年以降、環境省主導で進められるエコツーリズムでの地域資源活用が多くみられ、全国的に注目を集めてきた。また、近年ではキャンプをはじめとしたアウトドア活動への関心が高まり、中山間地域の観光リソースを活用した取り組みが増えつつある。さらに 2020 年のコロナショック以降、健康志向、体験志向が従来以上に高まってきている。しかし一方で健康増進に必須の「スポーツ」を意識した地域での取り組みは多いとはいえない。そこで、本学スポーツ科学部の学生たちが主体となり、飯能市のもつ里山資源を活用した「体験」を提供するアウトドア・スポーツ・ツーリズムを盛り上げる活動を進めていきたいと考え、本活動に取り組む。

３　活動内容

１）キャンプツアーの企画運営とそのブラッシュアップ
２）原市場と隣接地域との関係性の構築　→地域のイベント等への参加
３）地域産品を活用した健康に良いプロダクトの開発のための 6 次産業化の可能性について、調査と試作を実施

４　成果

１）はじめてのプチサバイバルキャンプの実施とその結果

飯能市エコツーリズム推進協議会が発行する「飯能エコツアー」のプログラムとしてエコツアー「はじめてのプチサバイバル」（以下プチサバ）を地元の一般社団法人里山こらぼと連携して実施。

ブラッシュアップした点

① リスクマネジメントの徹底

衛生面はもちろんのこと、川遊び、火遊びなどでのリスク回避を徹底。

② 地域資源の活用

コロナ禍でできなかった食育プログラムを実施。

③　内容のスリム化と独自化

内容を詰め込まずそぎ落とす作業を行った。昨年度のアンケートで希望があった動画や画像の提供を行った。更に拠点の整備と施設の充実に取り組んだ。また、クラウドファンディングに挑戦した。

２）地域イベントへの参加

①お散歩マーケットへの参加

春と秋に実施されたお散歩マーケットへスタッフ参加(事前準備も)

②地元商店応援プロジェクト（飯能信用金庫と協働事業）

地域の状況把握のための取り組み

③飯能まつりへの参加

飯能まつりで二丁目のスタッフとして活動した。

④ まち歩き型謎解きゲーム　ぶらり飯能旅

飯能の良いところを知っていただくまち歩き型の企画。LINE を使った謎解きゲームのスタッフとして参加した。約 180 名が参加した。

⑤ クリスマスリース作り

里山の環境を「楽」習し、探究しつつ、素材を集め、オリジナルクリスマスリースを楽しく作る手伝いをした。

⑥ ミニ門松づくり

全国的に問題になっている竹害。竹をめぐる環境問題を考えつつ、竹を使ったミニ門松づくりのスタッフとして活動した。

⑦ SDSU 研修運営スタッフ

駿河台大学教職員約 200 人向けの研修の運営スタッフとして活動した。

３）地域産品を活用した健康に良いプロダクトの開発のための 6 次産業化の可能性について、調査と試作

2022 年度冬に植えたブルーベリーを活用したプロダクト開発を計画していたが、鳥やシカの食害が酷く、また、夏の酷暑があり、枯れたものもでてしまい、ほとんど収穫できず。

５　課題

上記活動内容の３）について、鳥獣被害への対策を検討しなければならず、来年度以降の課題となった。また、でしか、ならではのプログラムづくり、また、地域とのさらなる交流がよりよい関係性の構築につながるであろう。

６　次年度以降の計画

１）　プチサバイバルキャンプの発展形プログラムをつくる

２）　アウトドアスポーツを楽しむプログラムの構築

３）　地域資源を活用し、健康を意識したプロダクトをつくる